

Ⅲ. 分担研究報告 5

**厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
分担研究報告書
健診及び結果説明、形態学的評価**

研究分担者 齋藤 貴徳 関西医科大学整形外科学講座 教授

研究要旨

令和 4 年度の健診について報告する。当施設は本年度からサリドマイド胎芽症を対象とする人間ドック健診を開始した。令和 4 年 4 月から健診実施に向けた準備を開始し、年度後半から受診希望者を受け入れた。受診者数は 4 名で、男性 2 名、女性 2 名、平均年齢 59.5 才であった。

研究結果

1. 内視鏡検査を実施した 2 名全員が経鼻内視鏡を希望され実施した。検査に伴う偶発症は認めなかった。胃がんをはじめとする悪性腫瘍は認めなかった。1 名にびらん性胃炎と食道裂肛ヘルニア、1 名に表層性胃炎と胃ポリープを認めた。

2. 頭部・体幹部 CT を希望したのは 3 名であった。1 名は異常所見なし、1 名に甲状腺腫瘍が確認され、精査を推奨した。1 名に脂肪肝、肝嚢胞、子宮筋腫を認めた。

3. 頰椎・胸椎画像検査は 3 名が希望し、うち 2 名はレントゲン検査、1 名は MRI 検査を施行した。1 名はレントゲンで異常所見なし、1 名は C3/4 レベルに加齢性変化を伴う軽度の狭窄を認めた。脊髄の圧迫は極軽度で治療の必要はないと考えられた。1 名は C5/6 で変形性変化を認めた。

4. 腹部超音波検査では 4 名中 2 名に脂肪肝を認めた。その他、1 名に腎石灰化（腎結石）、1 名に肝嚢胞を認めた。無胆嚢症や腫瘍性病変は認めなかった。

5. 骨密度検査は 2 名に施行し、1 名で YAM 値が 75% と標準より低値であったため、骨粗鬆症治療の開始を推奨した。

6. 生活習慣病関連の検査では、1 名で BMI が 25% 以上、男性 1 名、女性 1 名でそれぞれ腹囲が基準値以上であった。中性脂肪は 3 名で 150 mg/dL 以上、LDL コレステ

ロールは 1 例で 140 mg/dL 以上であった。HDL コレステロールは 40 mg/dL 未満の者はいなかった。耐糖能異常は見られなかった。

7. 整形外科的診察では、1 名で脊椎 MRI で頰椎 C3/4 レベルに加齢性変化に伴う軽度の狭窄が認められたが、神経症状を呈するような脊髄の圧迫はなく、経過観察でよいと判断した。1 名で右上肢の形成不全のため日常生活で左上肢への負担が大きく、左手関節の腫脹とガングリオン形成が見られた。ガングリオンにより伸筋腱が絞扼されており左手の動きが制限され、箸の使用が困難になっていた。今後ガングリオン摘出や関節注射による関節炎のコントロール、装具による局所安静、などの治療が必要になることが予測された。

考察

例数が少ないため統計的な解析は困難であるが、サリドマイド患者では脂肪肝の頻度が高いと考えられた。また一側の上肢障害を有している症例は対側上肢への負担が大きく、対側上肢に障害を生じやすいことが示唆された。